

はじめに

2020年4月、埼玉県環境科学国際センターが開設20周年を迎えました。全国に67ある地方環境研究所の中で、唯一「国際」という名称を掲げており、世界に開かれた環境改善を目指しています。試験研究のみならず、環境学習、国際貢献、情報発信という4つの機能を持ち、他の地方環境研究所とは一線を画す複合施設として活動しています。

しかし2019年末に武漢で感染が広がり始めた新型コロナウイルスは、2020年3月のWHOのパンデミック宣言と共に、我が国へも大きな影響を与えました。2020年4月7日～5月6日には、埼玉県にも1回目の緊急事態宣言が発令され、その結果、この記念すべき20周年に、私たちは大変な逆風を受けることになりました。愚者は風よけを作る、賢者は風車を作るといいます。この逆風をなんとかして、災転じて福となす、プラスになるよう立ち向かっていこうと考えてまいりました。

試験研究においては、野外観測や学会活動を含む研究活動が、多くの制限を受けました。一方で、社会、経済活動の自粛により、交通渋滞が減少し、大気汚染物質であるNOx濃度などが、大幅に低下したことが、調査により判明しました。ただ、これは一時的な減少で、また元の状態に戻りつつあります。このような状況下で、県民の身近な問題を考えると共に、問題回避のための基礎的な研究にも力を注いでいます。

環境学習については、変化していく環境問題に対応するため、20周年を機に展示館をリニューアルし、愛称を「彩かんかん」としました。残念ながらコロナ禍により閉館せざるを得ない状態が続いていますが、屋外の生態園の整備も進んでおり、県民の皆様が親しまれる、より魅力的な施設となるよう努力を重ねています。

国際貢献については、当センターの培ってきた科学技術を生かし、ベトナムや中国、韓国なども環境技術研修指導、国際共同研究交流などを、長期にわたってリードしてきました。ただ、この分野でもコロナ禍で対外的活動が大きく制限され、20周年を期に新しい国際交流や貢献のあり方を検討しています。

情報発信に関しては、彩かんかんや生態園が閉鎖中、フェイスブックやYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」を活用し、多くの皆様に閲覧していただいています。また2019年12月には地域気候変動適応センターが、地方自治体で初めて設置されました。地球温暖化を身近に感じるようになりつつある昨今、日本一暑い街を有する埼玉県としては、その適応策を講じる必要があり、県内の市町村との連携を深めています。従来の環境モニタリングを始め、様々な研究を通し、環境問題解決に向けて、県の施策への情報提供や技術的助言、県民の皆様への情報提供などを行っています。

「日本一暮らしやすい埼玉県」を環境の面から貢献していくためには、皆様の御理解と御支援を仰がなければならないことはいうまでもありません。当センターの活動について率直な御意見と、高い視点からの御指導、御鞭撻を賜ることができれば幸いです。

令和3年3月

埼玉県環境科学国際センター
総長 植松 光夫

